

再評価結果（平成17年度 事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：鈴木 克宗

| 事業名 地域高規格道路「岡山環状道路」 一般国道180号岡山西バイパス | 事業区分 一般国道 | 事業主体 中国地方整備局 延長 5.6 km | | | | | | |
|--|---|--|------------------|--|--|-----|--|-------|
| 起終点 自：岡山県岡山市古新田 至：岡山県岡山市植津 | | | | | | | | |
| 事業概要 岡山環状道路は岡山県南地域の交通環境及び都市環境を改善させるとともに、周辺地域の一体化を図る延長約40kmの道路である。岡山西バイパスは、地域高規格道路「岡山環状道路」の一部を構成し、延長5.6kmのバイパスである。 | | | | | | | | |
| S54年度事業化 | S54・S57年度都市計画決定（H13年度変更） | S54年度用地着手 S59年度工事着手 | | | | | | |
| 全体事業費 | 約910億円 | 事業進捗率 52% 供用済延長 ー km | | | | | | |
| 計画交通量 | 54,400台/日 | | | | | | | |
| 費用対効果分析結果 | B/C (事業全体) 1.8 (残事業) 5.4 総費用 (残事業)/(事業全体) 314/972億円 (事業費: 283/941億円 維持管理費: 31/31億円) | 総便益 (残事業)/(事業全体) 1,707 / 1,707億円 (走行時間短縮便益: 1,445/1,445億円 走行費用減少便益: 168/168億円 交通事故減少便益: 94/94億円) | 基準年 平成16年 | | | | | |
| 感度分析の結果 残事業（全体事業）について感度分析を実施 交通量変動：B/C=6.0（交通量+10%），B/C=4.6（交通量-10%） 事業費変動：B/C=5.0（事業費+10%），B/C=6.0（事業費-10%） | | | | | | | | |
| 事業の効果等 円滑なモビリティの確保・・・現道の交通混雑の改善、第三種空港（岡山空港）へのアクセス向上 都市の再生・・・区画整理等の沿道街づくりとの連携あり 他21項目に該当 | | | | | | | | |
| 関係する地方公共団体等の意見 岡山西バイパスは、岡山都市圏の渋滞解消等に重要な役割を果たす事が期待されており、岡山市、総社市など4市からなる「一般国道180号 岡山県整備推進期成会」により早期整備の要望を受けている。 | | | | | | | | |
| 事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 人口増加、経済活動の進展を背景に都心部流入路線において深刻な交通渋滞が発生している。 | | | | | | | | |
| 事業の進捗状況、残事業の内容等 約91%の用地買収を完了するとともに全線にわたり工事を促進している。 | | | | | | | | |
| 事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 一部において用地補償協議が難航しているが、平成17年度には岡山市古新田～岡山市西長瀬を暫定供用する予定で、残区間については平成20年代前半の供用を目指す。 | | | | | | | | |
| 施設の構造や工法の変更等 建設副産物の発生抑制や再生資源利用等により、今後ともコスト縮減に努めることとしている。 | | | | | | | | |
| 対応方針 事業継続 | | | | | | | | |
| 対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、事業の必要性・重要性は変わらないと考えられる。 | | | | | | | | |
| 事業概要図 <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <table border="1" style="margin-right: 20px;"> <tr><th colspan="2">凡例</th></tr> <tr><td></td><td>供用中</td></tr> <tr><td></td><td>再評価箇所</td></tr> </table> </div> | | | 凡例 | | | 供用中 | | 再評価箇所 |
| 凡例 | | | | | | | | |
| | 供用中 | | | | | | | |
| | 再評価箇所 | | | | | | | |

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。